

1 都茂公民館の概要

旧二川村・旧都茂村・旧東仙道村が合併し美濃郡美都村が誕生し、その後において美都町となりました。現在の益田市美都町都茂地区はその中心部に位置し12の自治会で構成され、益田市美都総合支所・ふれあいホールみと・農協・郵便局・中学校・小学校・保育所等もこの地域に有ることから生活の拠点となっています。また社会福祉協議会・特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・デイサービスの福祉施設も都茂地区に設置されているのも特徴です。

産業は、都茂鉱山が町の主要産業として美都町を支えていた歴史があり、昭和30年には3,900人近くあった人口も、平成21年には1,100人近くまで減少し、閉山後の中心産業は農業であり、圃場整備事業も進み基盤整備は整っていても、後継者不足が深刻です。

観光資源は、秦佐八郎博士の生誕地として記念館を建立し、偉業を讃えています。また金谷城山桜・後山都茂屋のヤブツバキ等の天然記念物があり、シーズンには見物客が訪れています。

地域の文化では石見神楽や田ばやしが確実に伝承され、近年は子供神楽も色々な地区や地域へ出かけ盛んに活動しています。

2 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名：父ちゃんの背中はでっかいぞ

② 実証事業のテーマ

社会情勢の変化に伴い少子高齢化が進みつつある現在、将来を担う子ども達の実環境も変化しています。メディア情報化や経済状況の悪化が拍車をかけ「子育て」をする「親」にとって孤立感も増し、適切な対応に悩むなど大変厳しい時代を迎えていると思います。

子育ての基本は家庭にあります。知・徳・体の調和がとれ、社会や人と積極的に関わっていくことのできる人を育てるためには、家庭・保育所・学校・地域社会が相互の信頼関係を築きながら、それぞれの役割を果たしていく必要があることから、親育ち・子育ち・地域育ちを目的にテーマを設定しました。

③ 実証事業のねらい

都茂地区の場合、未就学児は子育てサロン。保育所ではさまざまな体験活動を通しての育ち。学校においては「ふるさと教育」の推進で柔らかい感性が育まれています。幸い地域においても「よその子もうちの子と一緒に、子どもは地域の宝」の気持ちから、登下校時にあいさつと見守りを兼ねた「声かけ隊」の結成。また、休日や長期休日に子育てパートナーさんによる「ボランティアハウス」の活動もされており、地域で子ども達を育てる気運が高まりつつあります。

そんな中、保育園児を持つ若いお父さんから「このままで良いのか、何かしたいな」という小さな声が聞こえてきました。この自発的な声を大事にし、共に育てることがで

できれば親同士の連帯感も生まれ、子育てへの閉塞感も多少なりとも解決できるのでは
と思い、事業のねらいとしました。

(2) 具体的な取り組み

① 自主的な声を大切にする

このままで良いのか？何かしたい！と感じたお父さんの声を聞き、公民館も連携し、
主に保育園児のお父さんにより、自主的な体験活動をするべく、実行委員会が立ち上
がりました。ここを核とし、親同士が本音を言い合い、情報を交換し、つながりを作
る場づくりができます。

② 自主的な芽を伸ばせるよう公民館も共に学ぶ

体験活動を実施するにあたり、実行委員会の段階から公民館も連携し、共に学び知
恵を出し合い、体験を共有できれば信頼関係も増し、より住みやすい地域になります。

3 事業の成果と課題

(1) 昔の生活体験をしよう

近くのキャンプ場に出
かけ、電子メディアから
一切離れた場所で原始的
に火を起すことから始
め、米をとぎご飯を炊き
竹の器と箸を作り、いた
だく。簡単なことの一
つですが、お父さん（お
母さん）達の活躍を見る
良い機会です。その背
中は子ども達の目にも
頼もしく映りました。感
動する良い企画である
ことから、同じ内容を
繰り返さないことが課
題と考



題と考

(2) 電子メディアのお話

祖父母参観、昔の生活
体験事業により幅広い年
齢層に対し、電子メデ
ィアに関するお話が
出来たことは、とて
も大きな収穫であ
ったと思います。

この事業の中で、祖
父母参観に出席され
た祖父の一人がと
ても関心されこの
方の務めておられ
る職場でも電子メ
ディアのお話をする
機会を与えて





いただいたことは、とても大きな成果であるとともに、強く嬉しさを感じております。

また「陶板に手形を残そう」と合わせて実施した電子メディアのお話には参加者すべての方が真剣に耳を傾けられたことも大きな成果と思えます。

なかなか踏み込めない電子メディアに関する教育も、話し方や伝え方に

より誰もが退屈しないで真剣に参加できる環境づくりが課題と言えます。

(3) 陶板に手形を残そう

親子で手形を一枚の陶器に作る体験です。子ども一人に1kgの粘土を準備し、親子で粘土を延ばし手形を残しました。一生のうちの一瞬を残すことで、思い出と共に確かな絆をそこに見ることができました。

幸いにも地区に陶芸サークルが有るからこそ可能なことであり、仕上げまでの作業内容と時間も必要なことから、サークルの皆さんにとっても感謝しております。



実証「地域力」醸成プログラムを通して、大きくは年間3回の事業に取り組む中で実証事業名「父ちゃんの背中ではでっかいぞ」に相応しい反応を感じる事が出来ました。

この大きな事業を実施する前段では、遊限会社子育て建設として代表を決定し、役員を募り、事業実施に向けての会議も多く重ね、事業実施後の検証を行う等、それぞれが仕事を持つ中で、とても頑張ることのできる素晴らしい団体だと思われま

4 今後の方向性

子育て建設としての活動を通じて、親の輪、親子の輪、そして地域の輪が素晴らしい形で出来上がったといえます。これだけ若いお父さん（お母さん）世代が、事業毎に見せる笑顔がそのことを証明しているように見えて来ました。

今、子育て建設は来年度に向かって事業を検討しています。代表は勿論ですが、子育て建設の重役で組織する役員会では、山の子が海で地引網との意見も交わされたところですが、この地域で誰も実施していないことに挑戦することとして、大きく前進しているところです。

今年度に残された全体会は、親子で陶板に手形を残そう事業の検証会が計画されており、この中でどのような案が出されるのかが今から楽しみにしております。

実証「地域力」醸成プログラム事業が、遊限会社子育て建設にとっても意味のある大きく確実なもので、これから先も彼らの意気込みに陰から応援したいと考えます。

子育てサークル



(遊)子育て建設 (益田市美都町)



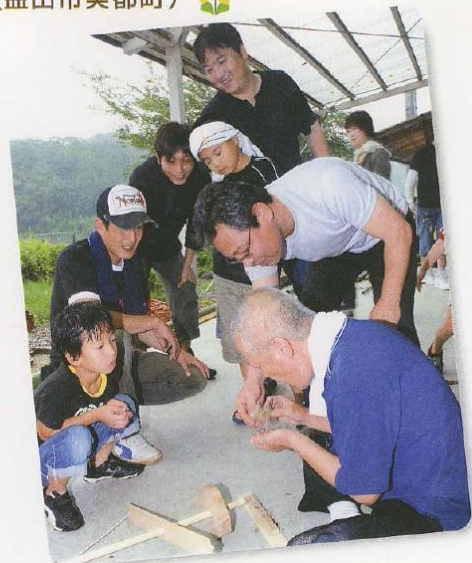
竹を削って皿やスプーンを製作するお父さんを、見よう見まねで手伝おうとする子どもたち。益田市美都町の都茂地区で、今春設立されたグループ「(遊)子育て建設」の第一弾の活動がこのほど、和やかに行われました。

参加者は、未就学児がいる家庭と、都茂公民館、都茂保育所のスタッフら、計48人。「昔の生活体験学習」と題して、器の製作や火起こし、カレーライス作りに挑戦し、子どもは竹とんぼや竹馬で遊んだりもしました。

社会情勢の変化に伴い、子育ての環境も厳しくなる中、「まず、親同

士と一緒に活動し、家族がつながるきっかけをつくらう」という目的で活動が始まりました。父親の役割に焦点を当て、親の背中を子どもに見せるのも狙いの一つです。この活動は、公民館を核とした地域連携を支援する「実証!地域力醸成プログラム」にも選ばれています。

代表の三浦竜也さん(32)は「集団でなければできない、面白い活動を企画したいと思います。親同士の情報交換や相談など、今後も長く続くような関係を築ければ」と話しています。



木製の棒と木くずを使い、火を起こす参加者の皆さん



連絡先：都茂保育所

☎ 0856・52・2006

☎ 0856・52・2069



子育て支援のページ

